



た具合に都市名を使って延々と英文を伝えるのですが、10人分のデータを流すのに、2時間以上かかったこともあります。それは私が流したデータを確認のためにオペレーターが電話口の向こうから全文繰り返すからです。この電報送付の作業の緊張と苦労は、今でも忘れられません。

80年代になって、テレックスが導入され、ブータンと直接通信ができるようになりました。ただ、ティンプーとの通信は、先方の電力事情にかかっています。しばしば停電が続き、メッセージが送受信完了となるまでに数日かかるのは当たり前のことでした。

その後、1990年代には電話がだいぶ通じるようになり、ファックスが使えるようになりました。しかし、ブータン側が停電では送受信はできません。その電力事情も次第に改善され、1999年にはようやくインターネット通信が可能になりました。おかげで通信費のコスト削減ができ、1991年に民営化されたブータンのツアー・オペレーターにとっても大きな利点となりました。

— いま、ブータンでの登山はトレッキングを除いて、全面禁止されています。どのような背景があるのでしょうか。

1983年に田部井淳子さんを隊長とする女子登攀クラブが先鞭をつけ、登山が解禁されました。その後、1994年には6千メートル峰以上の登山が禁止され、2004年からは全面的に禁止されました。ブータンの人々にとって、山は信仰の対象で神聖なものであるという理由でしたが、ネパールのシェルパや山岳ポーターのような職業がないブータンでは、村人がアルバイトで荷物運びの手伝いをするようになります。でも登山シーズンは田植えや収穫の時期と重なることもあって、農家の貴重なマンパワーを長期間割かれるのであまり歓迎されていませんでした。また、荷運び用の馬やヤクなども貴重な家畜であ

り、有償とはいえ長期間登山隊に提供することには村人の抵抗感もあったのです。このような状況を知った王家からも強い抗議が出され、現在も登山禁止の状態が続いています。しかし、頂上を目指さない短期間でおわるトレッキングはいくつものコースがあってむしろ奨励されているのです。

— ブータン王家は6年前の東日本大震災の後、第5代国王夫妻が被災地を見舞うために来日されました。第4代国王は昭和天皇の大喪の礼に参列されました。

2000年に875人だった日本人訪問者は、急激に増加し、2012年には6,967人に達しました。これは、ひとえに2011年の第5代国王夫妻の日本訪問を契機にブレイクしたブータンブームのお陰です。大地震と津波に見舞われた年の国王と王妃の来日は、多くの日本人に大きな感銘を与えました。仏教界の首相に相当する高僧、ドルジ・ロポン・リンポチェも同行され、福島で犠牲者のために特別な祈りを捧げられました。ブータン王室は、これまでもブータンを日本に紹介する重要な役割を果たされています。第4代国王は、1989年2月24日の昭和天皇の大喪の礼に参列されました。滞在時間は数日間だけでしたが、赤いゴに身を包んだ若き国家元首の堂々たる姿は多くの日本人の心を打ちました。まさに国家の品格を身をもって示されたといえるでしょう。

— さて、40年前といまのブータンですが、どこが最も変化したのでしょうか。

私自身は、途切れることなくずっとブータンに通い続けてきたため、変化するブータンに慣れてしまっている気がします。しかし、冒頭で申し上げた、1976年のグループのメンバーの中に、39年振りにブータンを再訪した、86歳の女性がいます。当時はインドのバグドグラから陸路の入国でしたから、まず、空路でパロに到着できることに驚かれています。それからまるで人の姿を見かけな

かった39年前の町中に、たくさんのが建ち、人も車も多くなっており、そして多くの若者がスマートフォンを手していることに驚嘆していたのです。

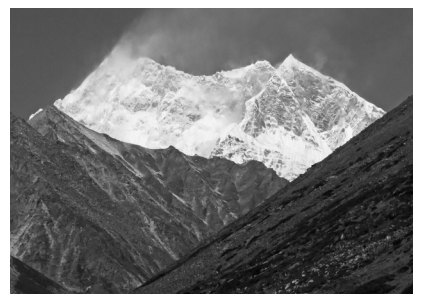
これからもブータンは変化を遂げていくと思いますが、美しい自然と穏やかな人びとの笑顔でツーリストを癒やし続ける国であり続けてほしいと願っています。  
(インタビューおわり)

渋谷のマンションの小さな旅行会社で脇田さんと出会ってから、40年。お互い会社も違ったので、むしろ競合関係だったといえるかもしれません。でも脇田さんが前職を退いてから13年も経っているとのことなので、いままで関わってこられたブータンのことを聞かせてもらいました。

脇田さんは、インドのアルナーチャル・プラデーシュ州の少数民族に関する論文で、2014年に慶應義塾大学から博士学位(社会学)を授与されています。日本では数少ないブータン研究の最前線にもおられ、いまもインド、ブータン、チベット国境地帯へ頻繁に出かける研究生活とか。あいかわらず山から遠ざかったまま、日々の会社通いをつづける自らを省みる機会となったインタビューでした。

(平成29年3月16日 聞き手:黒川 恵)

## 未踏の世界最高峰 ガンカープンスム(7,570m)



▲パムルバ手前からガンカープンスムを望む

アルパインツアーは2015年秋、日本山岳会創立110周年記念企画としてチャムカール谷からガンカープンスム南東面へのトレッキングを催行しました。2017年秋にも企画いたしますので、ご期待ください。